Program
Guidebook

総合診療専門医プログラムへの応募・問合せ

プログラムの説明や質問、各施設の見学や待遇などお気軽にご相談下さい！（問合せの秘密は厳守します）

総合診療専門医の研修に関心のある方のご連絡をお待ちしております
総合診療研修に興味のある医学生の方には、初期臨床研修についても適切にコンサルトいたします

診療内容やプログラムの内容などは、お気兼ねなくプログラム責任者にお尋ね下さい。

nobuyuki-maki@i.shizuoka-pho.jp

プログラム責任者　静岡県立総合病院 救急科医長　牧 信行（まき のぶゆき）

メールによるお問合せ先

sougou-soumu@shizuoka-pho.jp

事務職員　静岡県立総合病院 総務課　大下 将（おおした　まさし）

お電話によるお問合せ先

054-247-6111（代表）

「総合診療専門医研修のパンフレットを見て」とお伝え下さい。

発行：プログラム基幹研修施設　静岡県立総合病院　〒420-8527　静岡市葵区北安東4丁目27番1号（JR静岡駅より約５km　新東名高速道路 新静岡ICより約６km）

新専門医研修

プログラムガイドブック

総合診療専門医

発行　静岡県立総合病院

「時に癒し、しばしば支え、常に慰む」

皆さんにとって、後期研修先を選ぶ時にいちばん大切にしたいことは、何でしょうか。

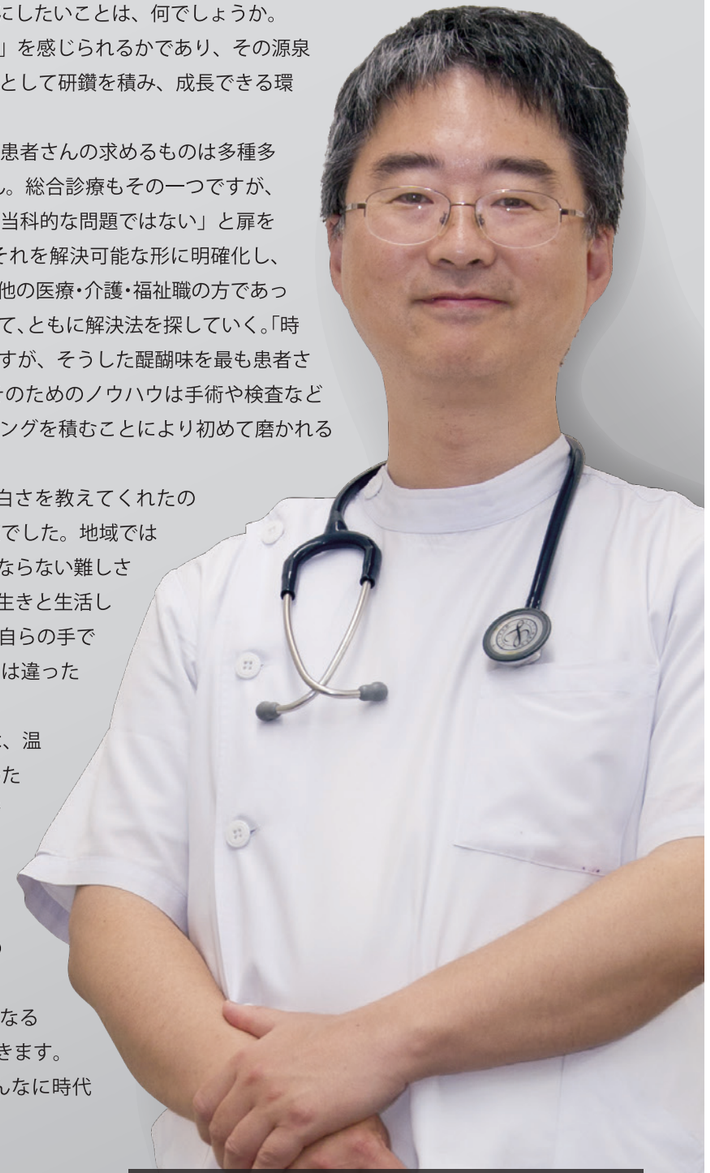
私にとっての答えは、いかに「医師としてのやりがい」を感じられるかであり、その源泉は「そこにいる人達に必要とされていること」と「医師として研鑽を積み、成長できる環境があること」だと思います。

どの科もすべて、患者さんのためにあります。ですが患者さんの求めるものは多種多様であり、その全てに一人で対応できる医師はいません。総合診療もその一つですが、自分の守備範囲を超える問題に出会った時に最初から「当科的な問題ではない」と扉を閉ざすのではなく、患者さんのそばで話をまず聴き、それを解決可能な形に明確化し、必要であれば他の人の力(他科の医師だけでなく、時には他の医療・介護・福祉職の方であったり、家族や患者さん自身であることもあります)を借りて、ともに解決法を探していく。「時に癒し、しばしば支え、常に慰む」という言葉がありますが、そうした醍醐味を最も患者さんの近くで味わうことができるのが総合診療であり、そのためのノウハウは手術や検査などの技術と同じように、適切な指導のある環境でトレーニングを積むことにより初めて磨かれるものです。

私にそうした多種多様な訴えに対応する必要性と面白さを教えてくれたのは、自治医大卒業生として派遣されていた地域での医療でした。地域では医療資源などが限られる中で問題解決していかなくてはならない難しさもありますが、病院の中とは比べ物にならないほど生き生きと生活している人々に触れたり、人々のつながりのありがたさ、自らの手で地域そのものをより良くできるといった病院での研修とは違った視点を持つことが出来ます。

ふじのくに家庭医 / 総合診療後期研修プログラムでは、温暖な気候・温厚な住民気質を誇る静岡県内で、長年にわたりそれぞれの地域で信頼されてきた施設が東から西まで集まっていますので、そこでの研修ではじっくり地域医療の魅力に触れて頂きます。もちろん地域でも十分に役割を果たせる医学的素養を磨くために、県内随一の症例数を誇る静岡県立総合病院などで幅広い科の研修を受けて頂きます。

次は、皆さんの番です。医師人生の中で重要な一歩となる後期研修で、私たちは精いっぱいのお手伝いをさせて頂きます。そしてここで身につけたことは、どこに行っても、どんなに時代が変わっても必ず役に立つことを信じています。



静岡県立総合病院　救急科

牧　信　行

NOBUYUKI MAKI

＜略歴＞ 1972 年 大阪府高槻市生まれ。1998 年 自治医科大学医学部卒業、国保旭中央病院にて初期研修。2000年 富山町国保病院 (現南房総市富山国保病院) 内科。2002 年 国保旭中央病院内科。2004 年 鴨川市立国保病院内科。2007 年 静岡県立総合病院総合診療科。2014年 同 救急科。

＜資格＞ 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医・指導医／日本内科学会総合内科専門医・指導医／日本老年医学会老年病専門医／介護支援専門員 (ケアマネージャー)

総合診療専門医　研修プログラムの紹介

当プログラムは初期臨床研修を修了した医師を対象に、家庭医ないし総合診療の専門医取得を目指すための後期研修プログラムです。ただ全国の他のプログラムと同じく、医学部卒業年によって日本プライマリ・ケア連合学会の「ふじのくに家庭医後期研修プログラム」(学会制度、平成26年卒以前の方が対象)と、日本専門医機構の「ふじのくに総合診療後期研修プログラム」(新制度、平成27年卒以降の方が対象)に分かれております(※新制度における当プログラムは、平成28年5月12日現在では申請中です)。

学会制度での研修を修了された方も一旦日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医専門医となった後、移行措置を経て新制度の総合診療専門医に移行できる見通しであり、当プログラムでは学会制度・新制度とも出来る限り同じ内容の研修を受けて頂きたいと考えています。が、制度の過渡期にあたり応募される皆様には分かりにくい点もあることをお詫びします。

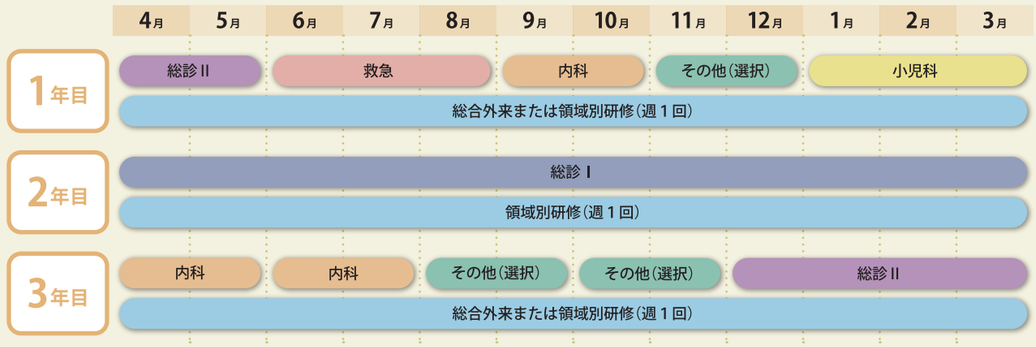
見方を変えればこの過渡期は、右肩上がりの経済成長から超高齢化の中で縮小する社会への、日本全体が過渡期であることの鏡であるともいえます。しかしその中で、小児から高齢者まで、領域横断的に患者を幅広く診ることのできる家庭医・総合診療医への期待は変わることがありません。

この困難な時期に、当プログラムは静岡県で初めて伊豆・駿河・遠江の三国にわたる広い県域のそれぞれで地域医療を支えてきた8施設が一致団結して作成され、次の4つを「売り」としています。

研修カリキュラム

モデルとなるローテーション例

※各施設の案内は、このパンフレットに掲載されています。



学会制度・新制度ともに、ローテート基準として診療所または地域の小病院で行う総合診療Ｉと病院の総合診療部門で行う総合診療Ⅱ(それぞれ6か月以上、あわせて18か月), 内科(6か月), 小児科(3か月), 救急(3か月)を必修としています。

3年間のうち残る6か月はその他を含めた領域別研修を自由に選択することが可能です。ただし当プログラムでは、前述の家庭医として備えるべき能力を考慮し、メンタルヘルス, 終末期のケア, 女性・男性の健康問題, リハビリ等を経験することが出来る診療科を優先的に選択することを推奨しています(総合診療Ｉ等で十分経験できた場合にはこの限りではありません)。内科はサブスペシャリティ3科を2か月ずつ、その他領域も3科を2か月ずつのローテートを基本とします。

総合診療ＩとⅡでの研修は内容に共通するところも多くありますが、総合診療Ｉの方が研修の自由度が高いことや地域医療を支えるための多くを学べること等を考慮し、総合診療Ｉを12か月間通じて行い、総合診療Ⅱを6か月間行うことを基本とします。その他の研修は地域に出るまでに身につけるべきことと、地域を経験した後にさらに深く学ぶ価値が見えるものがありますので、専攻医の到達度や希望を考慮しプログラム責任者や研修先の指導医と相談して組んでいきます。

3年間を通じて、週4日の本研修のほか週1日の兼任研修を行います。兼任研修では、本研修が総合診療Ｉ以外の間は臓器別によらない総合外来を行うことを原則とします(専攻医の到達目標や経験症例その他の事情により、領域別研修に充てることも考慮可能です)。総合診療Ｉローテート中は、兼任研修では希望する領域別研修を行います。

基幹研修施設　静岡県立総合病院のご紹介

- **病 床 数**　712 床（一般 662 床、結核 50 床）
- **看護体制**　7：1（一般病床）
- **診療科目**　基本領域をカバーし、更に専門性の高い診療科も充実しています。（精神科のみ関連施設）
救急科、循環器内科、心臓血管外科、腫瘍内科、緩和医療科総合診療科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、外科（消化器外科）、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、ペインクリニック科、遺伝子診療科、麻酔科、集中治療科、放射線科、核医学科、病理診断科、臨床検査科
- **医 師 数**　259 名（初期研修医 40 名、専攻医 63 名を含む）※平成 28 年 4 月集計
- **施設認定**　高度救命救急センター、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、基幹災害拠点病院
へき地医療支援病院、
- **学会認定**　東海地区でも有数の 60 を超える学会認定を受けています。サブスペシャリティや各種資格の取得も円滑にサポートできます。詳しくはホームページでご覧下さい。
- **研修関係**　初期臨床研修病院として、約４０名の研修医が所属しています。（例年、定員を満たしています）
- **設　　備**　ハイブリッド手術室、集中治療室（ＩＣＵ・ＨＣＵ）、PET イメージングセンター、サイクロトロン、320 列ＣＴ、手術支援ロボットダビンチ、化学療法センター、などの高度な設備を備えています。
また、平成 29 年に先端医学棟が完成予定です。手術室を 13 室から 22 室に増やし、メディカルスキルアップセンターなどが充実した教育研修フロアを備えた 5 階建ての施設です。
- **そ の 他**　医師専用住宅や院内保育所など各種設備が完備されています。
- **キャリア**　関連する複数の大学や研究機関での就業、海外留学、国内留学、開業まで支援できる素地があります。
安心して見学とご相談においで下さい。教育研修を統括する副院長、教育研修部長、各科責任者がご対応します。

病院長より、専門医研修をめざす先生方へのメッセージ

静岡県立総合病院は、がん医療、循環器医療、救急医療を
３つの医療の柱として、「信頼し安心できる質の高い全人的医療」の実現に向けて、
職員一同、一致協力して取り組んでいます。
また、県内の中核病院として高度医療や先進医療に取り組み、地域医療を支援しています。
平成２９年度には先端医学棟が完成し、
より一層充実した医療および研究・研修環境を提供します。
将来の医療を担う医師の育成に力を注いでいる当院で、是非充実した研修生活を送り、
今後の財産となるであろう様々な経験を積んでください。
みなさまのご応募をお待ちしています。

静岡県立総合病院　病院長　田中　一成

基幹研修施設「静岡県立総合病院」における総合診療専門医研修のご紹介

静岡県立総合病院は県庁所在地の基幹病院であり、総合診療Ｉとその他の一部を除く全ての領域の研修を行う、プログラム全体のベースキャンプとなる施設です。年間の初診患者数約 25,000、救急車受け入れ数約 4,700(2015 年度) と症例数は豊富で、30 以上の診療科を備えています（2016 年 3 月 10 日現在）のでコンサルト先や領域別研修で困ることもまずありません。

総合診療 II と救急研修を通じて救急科で行うため、救急・急性期疾患の症例を充分に経験できるのが特徴です。もちろん救命救急の技術を学ぶためのトレーニングコース (BLS,ACLS,ICLS,JMECC 等) も盛んに開催されていますが、これらの症例の対応はそうした技術だけではなく、疾患・臓器横断的に患者全体を診る視点や、専門各科との連携が欠かせません。専門各科への紹介後に何が必要となるのか、家庭医 (総合診療医) としての役割は何か等について、領域別研修や症例検討会等を通じて学んでいきます。

当院は全国で３６施設しかない高度救命救急センター（大学病院運営を除くと全国で１１施設）であり、あらゆる領域の急性期疾患の初期対応を専門各科と一緒に経験できるのは、救急科研修ならではです。

救急重症処置室での患者受け入れ

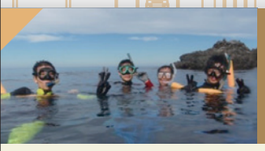
CVC 講習会

その他、療養病院や在宅医療施設，訪問看護師等との連携を目指した勉強会「慢性期医療を考える会」，専門各科による基礎臨床講座，スキルアップセンターでの縫合トレーニングや中心静脈カテーテル (CVC) 講習会，医療安全や感染対策の講演会，緩和ケア研修会，拡大キャンサーボードなど数多くの講演会・研修会が開催されており、これらにも積極的に参加して頂きます。

初期研修医の教育や研究活動も、当院での研修における重要な要素と考えています。当院は年間約 20 名 (2 年次まで合わせて約 40 名) の初期研修医が在籍しており、研修科指導医と相談して初期研修医の指導に当たっていただきます。研究については医学文献 (MedicalFinder，メディカルオンライン等)，検索サイト (PubMed，医中誌，Scopus 等)，電子教科書 (UpToDate，Dynamed，Cochrane Library 等) の利用が全て無料のみならず使い方の講習会も行われており、英語勉強会や国際学会発表時の補助もあります。

職員宿舎・院内保育所完備，当直明けの昼 11 時以降は仕事が休みなど福利厚生にも配慮しており、女性医師の産休・子育て対応なども相談に応じます。

研修施設の紹介



相模湾・天城山・伊豆の
豊富な救急症例経験で
パワーアップ！！

伊東市民病院

地域医療振興協会が運営。伊豆半島東部地区の基幹病院として、1～2次救急を365日24時間対応。温暖な観光地で観光客も多く、別荘地の居住者も含め、70歳以上の入院患者が69%、初期研修医も多く、市内唯一の急性期医療を担う医療機関で、後期研修医も加わり若手医師が増加。伊東の技術で日本初の帆船がつくられ、メキシコまで航海できたように、伊豆の力で、世界へ飛び立てる力量を備えた専攻医を育成することが目標。平成２６年度：年間救急外来件数 6,910件（時間外 約85%）、救急車搬入件数 3,295台（時間外 約68%）、ヘリポートを完備。屋根瓦式の研修体制：上級医-シニア-ジュニアの診療チームで、気軽に質問・相談でき、教育に熱意のある東京ベイ浦安市川医療センター等の派遣医師とともに、良い意味での刺激を受けながら研修ができます。総合診療指導医も複数おり、個性を尊重し、明日を担う総合診療専攻医を育てます。

地域医療以外も
楽しめます。

伊豆今井浜病院

当院のある賀茂郡河津町は、美しい風景、温暖な気候、今や全国区の河津桜、海・川・山の素晴らしい食材、湧き出る温泉など、魅力には事欠かない地域です。
しかし、この町には当院が設立された平成２４年まで一般病床がなく、入院が必要な患者様は近隣市町の病院に運ばれていました。オープン以来4年弱で、外来を中心に患者様は増加の一途です。そして、いよいよ平成28年度中には100床増床となり、急性期110床、回復期50床の陣容で、再スタートすることとなっています。この病院は内科・外科・整形外科・婦人科の外来・入院医療と・小児科・眼科・耳鼻科・皮膚科・循環器科の外来診療を行っています。地方の60床の病院としてはかなりの数の手術や内視鏡的治療なども行われています。
また、近隣の開業医先生と隔月で行って来たカンファランスは100回を越え、病診連携も強固です。
今後は地域医療構想も踏まえ、在宅医療にも注力していく予定であり、総合診療の実習としては非常に適していると考えております。

富士市で、乳児健診から
高齢者、看取りまで

トータルファミリーケア 北西医院

榜する無床診療所です。外来患者の年齢構成は小児が断然多くなっています。外来診療は、小児の感染症、成人の慢性疾患を中心に、乳児健診、予防接種も多く行っています。また回復期リハ、緩和ケアの経験をいかし、在宅医療も積極的に行っています。病児保育施設も運営しており、小児保健、子育て支援のさらなる展開を模索しています。
また、看護師による、糖尿病、小児喘息、乳児健診（2、4、10か月）、看取り、行動変容、認知症等看護外来を行っています。薬剤師も2名常勤で、週1回の全体ミーティングなど多職種協働（IPW）、多職種連携教育（IPE）を行っています。
医師会活動や医療、介護、福祉の勉強会「ケアカフェふじ」を行っています。
年間を通して、「総合診療のコア」、「内科診療アップデート」、「最新ガイドラインレビュー」、「他科領域」、「漢方診療」の勉強会をしていきたいと思います。
家庭医療の経験は、今後の医師人生にとっても貴重な経験になってくると思います。共に働き、共に学びあいましょう。

基幹研修施設より
10分圏内。精神疾患の
初期対応等を学べます

静岡県立こころの医療センター

当院には、現在4個病棟、180床の稼働病床があります。静岡県精神救急システム事業に輪番および後方病院として、静岡県内の精神科救急に深く関与し、2個の精神科救急病棟に年間約500名の新規入院患者を受け入れています。ケースは、統合失調症だけでなく、あらゆる精神疾患を網羅しています。また医療観察法に規定された指定入院医療機関（12床）および指定通院医療機関になっており、県内のほとんどすべての医療観察法鑑定事例を受けています。
精神科領域における急性期および重症例に常に向かい合っているのが当センターの立ち姿です。一方で積極的な在宅支援や患者や家族への心理教育も疎かにしないように努めています。また、当センターの13名の精神科医師のうち5名が女性医師であり、県立病院機構の託児所の整備など福利厚生への配慮とメリハリのきいた現場運営ができています。
当センターでは、主に、①精神疾患との評価と初期対応、②プライマリ・ケアにおける精神科的評価と初期対応、の２点について研修していただく予定です。

歴史ある温泉地で、
地域に信頼される医療を目指す

日本赤十字社 伊豆赤十字病院

当院は伊豆半島の北部に位置する伊豆市、旧修善寺町にあります。伊豆市の人口は約31,000人（高齢化率35%）、面積は伊豆半島の北半分を占めています。旧修善寺町までは伊豆箱根鉄道が通じており、三島市から30分程度ですので東京からでも2時間はかかりません。車でも東名高速まで30分以内で移動が可能です。2次医療圏内には順天堂大学静岡病院や静岡県立がんセンターがあり、それぞれの高度医療を担当している医療機関との連携が密になっています。このような現状において当院が目指す医療はどうあるべきか、それはやはり地域で信頼される医療の提供だと思われます。当院は急性期病棟51床と療養病棟43床を有し、隣には老人保健施設グリーンズ修善寺も併設しています。内科系を中心にした総合診療を提供していますし、在宅医療にも力を入れています。専門的な医療は近隣にあるそれぞれの病院に紹介できますので、当院では総合診療を思う存分研修して頂けると確信しています。

へき地にあっても
知識は常に世界最先端！

西伊豆健育会病院（旧：西伊豆病院）

当院が位置する西伊豆地区は、高齢化率が40%を越える県内でも特に高齢化が進展している地域です。圏域の人口約15,000人をカバーする二次救急病院は当院のみであり、地域の中核病院としての役割を担っています。病床数は一般の急性期病棟36床、地域包括ケア病棟42床の合計78床であり、救急から在宅まで幅広く研修することができます。三次救急病院までは峠を越えて車で90分以上かかるため、「救急患者は断らない」ことを基本方針の一つとしており、24時間365日、救急患者の受け入れができる体制を整えています。救急疾患は内科系・外科系問わず様々な患者が受診され、専門科に関係なく診療にあたることができ、総合診療医としての臨床能力を高めることができます。常に知識をアップデートするため医局では「西伊豆早朝カンファレンス」と称される週10回の勉強会を実施しています。NEJMやthe Lancetの総説を中心に、世界最新の情報を常に勉強し互いに教え合い、僻地にいながらも世界最先端の知識を得て臨床を行うことができます。当院での研修は、総合診療医を目指す皆さんの人生において貴重な時間となることを確信しています。

さまざまな施設、職種、
住民との連携を学ぶ

公立森町病院

当院は、静岡県西部に位置する、人口19,000人の森町が運営している町立病院です。平成３年から在宅医療に積極的に取り組んできましたが、現在は隣接する森町家庭医療センター内に、森町家庭医療クリニックと森町訪問看護ステーション、さらに在宅医療支援室を設置し、家庭医療クリニックが外来と在宅医療の専門性を、病院がそれをバックアップする役割へと機能分化を進めています。病床数は131床で、DPC適用の急性期病棟45床、地域包括ケア病棟48床、回復期リハビリテーション病棟と3つの病棟の機能を分けて、それぞれの病棟の専門性向上を目指しています。森町は新東名高速道路が開通したことで、静岡市や浜松市の医療機関との連携も取りやすく、非常勤医師による専門外来と連携し、専門医を交えた定期的なカンファレンスを開催するなど、総合診療医の育成には適した病院であると思われます。
町全体をひとつの生活圏として地域包括ケアシステムの構築を進めている森町で、総合診療医を目指す若手医師とともに学んでいきたいと考えています。

病院から飛び出して
羽ばたこう

浜松市国民健康保険 佐久間病院

当院の理念は、「“ここ”での健康で生きがいある暮らしを支え、いきいき長寿の郷を実現するため、生活者の視点に立つあたたかな医療を行います」です。活動の特徴は通常の医療ばかりでなく、地域住民や地区社協との関わり、保健担当部署と協働した保健予防活動、介護福祉機関との密接な連携を行っているところにあるため、多くの人との関わりの中で地域包括ケアの魅力をたっぷりと味わっていただくことができます。具体的には多彩な課題を抱えた高齢者とじっくり向き合い患者中心の医療の神髄に触れることができます。高齢単身世帯と遠隔地の家族の問題、老老介護の問題などで家族志向性の醍醐味を味わうことができます。小地域福祉活動や地域のイベントに参加して地域ケアの一翼を担うことができます。何より、病院・診療所という箱から飛び出して、広がりのある地域、いきいきとした地域の人を感じながら羽ばたくことができます。

施設毎の選択可能診療科

総　診Ⅰ　：　佐久間病院（内科），北西医院（内科・小児科），西伊豆健育会病院（内科），伊豆今井浜病院（内科）
総　診Ⅱ　：　静岡県立総合病院（救急科），公立森町病院（内科），伊東市民病院（総合内科・総合診療科）
内　　科　：　静岡県立総合病院（救急科，循環器内科，腎臓内科，糖尿病・内分泌内科，神経内科，消化器内科，呼吸器内科），伊東市民病院（内科）
小 児 科　：　静岡県立総合病院（小児科），伊東市民病院（小児科）

救　　急　：　静岡県立総合病院（救急科／高度救命救急センター），伊東市民病院（救急科）
そ の 他　：　静岡県立総合病院（外科，整形外科，産婦人科，皮膚科，泌尿器科，眼科，頭頸部・耳鼻咽喉科，放射線科，緩和医療科*）伊東市民病院（外科，整形外科，泌尿器科，産婦人科，皮膚科，眼科，耳鼻咽喉科，リハビリテーション科）静岡県立こころの医療センター（精神科）、伊豆赤十字病院（内科）*

*… 兼任研修（週１回）のみ選択可能。